

社協情報 ふくしのはあと



No. 93

主な内容

- お達者サロン
- 福祉の心を育む事業
- むつぼし友の会点字絵本寄贈
- ボランティア登録団体紹介
「紙芝居クラブ」
- 善意の泉
- インフォ社協

2021年
(令和3年)

8・9月号

かわいい作品ができました ～ お達者サロン 健康教室 ～



8月20日

長雨が続いた後の真夏日に開催された「お達者サロン 健康教室」には、8名の方が参加されました。今日のメニューは、作品づくりと軽体操。作品づくりでは、頭と指先をつかい、タオルでかわいい子犬（右写真）をつくりました。できあがりに皆さん満足気な様子でした。



社協情報誌「ふくしのはあと」は、赤い羽根共同募金の配分金により発行しています。

社会福祉法人 南部町社会福祉協議会

お達者サロン 健康教室 (6月25日)

講師：南部町社会福祉協議会介護福祉士／藤田 渉 南部町社会福祉協議会管理栄養士／坂本 健

今回の参加者は8名。自己紹介を始めると、中には同級生の方もいて、穏やかな雰囲気の中で会がスタートしました。

軽体操では、腕の上げ伸ばし、手指の体操、足の体操と全身を少しずつ動かして体を温めました。

後半は、糖尿病についての知識を学びました。糖尿病がどんな病気なのか、血糖の重要な役割などを教えてもらい、日々の食事について改めて考え、今後気を付けたいポイントも学ぶことができました。

ご自身で健康管理に気を付けている参加者も多く、講師の話の合間に、参加者それぞれの健康管理法も聞くことができました。



糖尿病がどんな病気なのか
真剣に資料に目を通します



右手と左手で違う動きに挑戦
頭を活性化させます

血糖値をコントロールするためのポイント

- ・ 間食は午後3時ころにしましょう
- ・ 1日80キロカロリーを目安におやつを上手に活用することで、血糖値の上昇を穏やかにすることができます。

次回お達者サロン 参加者募集

次回の「お達者サロン」は10月に実施します。事前申込みが必要となりますので、お電話でお申込みください。

日 時 10月22日(金) 午後1時30分～3時

会 場 おらんど館(南部町剣吉字中町10-8)

参加費 無 料

定 員 10名(先着順)

申込締切 10月15日(金)

★駐車場に限りがございますので、お車で来場ご希望の方は、お申込みの際に担当者へお伝えください。

内 容 ①軽体操「実践！介護予防に最適な軽体操」

②講話 「高血圧予防のための食事について」

※お達者サロン推進事業は、赤い羽根共同募金配分金を活用しております。



●申込先●

デイサービスセンターあじさい

電話 0178-60-5500

(担当 坂本・久保田)

福祉の心を育む事業 ～福祉体験学習～

「福祉の心を育む事業」は、赤い羽根共同募金を活用しています。

「思いやり」や「ともに助け合う心」を育むことを目的として、町内の小中学校、高等学校で福祉体験学習を実施しています。

杉沢中学校 1・2・3年生 【7月8日 手話体験】

内容

- ・聴覚に障がいがある人の生活のDVDを視聴し、自分たちの生活との違いを考える。
- ・コミュニケーションの方法を学ぶ
- ・あいさつ、自己紹介の手話、自分の名前の指文字

感想

来週行われる八戸聾学校とのリモート交流のために、自己紹介の練習をしました。

慣れない指文字を練習して生徒からは「指がつりそう」との声が聞こえていましたが、2回目の授業となる3年生は徐々に前回は思い出し、スムーズに表すことができていました。

手話を教えてくれた聴覚障がい者の講師へ「コロナ禍でマスクをしています、表情や口の動きが見えなくて困らないのですか？」との質問もありました。



むつぼし友の会 町教育委員会へ点字絵本寄贈



左から) 津田さん、高橋教育長、松本会長

★むつぼし友の会

八戸市を拠点として、視覚障がい者のための点訳・音訳中心に活動。近隣市町村の小中学校・高等学校において点字体験学習をおこなっている。南部町には、10年以上にわたり子どもたちに点字の楽しさを伝え続けている。

7月21日、「むつぼし友の会（会長 松本孝綱氏）」の皆さんが南部町教育委員会 高橋力也教育長のもとを訪れました。この日、皆さんが教育委員会へ届けたのは点字絵本10冊。小学校へ寄贈するための絵本です。

むつぼし友の会の皆さんは、社会福祉協議会の「福祉の心を育む事業」で講師として町内の小中学校を訪れ、目の不自由な方の生活や点字について子どもたちにわかりやすく伝えてくださっています。

しかし、コロナ禍で小中学校での活動が以前より少なくなってしまったことから、点字について知ってもらう機会を増やそうと、今回絵本の点訳をし、町内の各校へ寄贈していただきました。

作成者の津田園子氏は「10冊すべて違う童話になっています。目の不自由な方の気持ちを理解し、困っていたら声をかけてあげてほしいです。」と子どもたちへの想いをお話してくださいました。



寄贈された絵本

ボランティアセンター登録団体紹介

ボランティアセンターには、現在9団体が登録しています。今回は「紙芝居クラブ」の活動をご紹介します。代表の小泉多鶴子さんにお話を伺いました。

主な活動内容

- 定例会 月2回
第2・第4水曜日 10時30分～12時30分
内1回は、講師を交えての勉強会
- 「紙芝居劇場」
保育園や公民館、サロンや老人福祉施設等を訪問して紙芝居を実演・披露



紙芝居クラブ

質問

団体の成り立ちとメンバーについて教えてください。

回答

私事になりますが、私は幼少時よりお芝居（演劇）が好きで、脚本書き、演出も好きでした。シニアになって総合的な表現が可能な紙芝居に着目して、勉強してみようと思ったのが紙芝居を始めるきっかけでした。当時、県内に紙芝居サークルは十和田市にあるのみと聞き、同市での講座を受講したり、サークルに入会して自分なりに紙芝居を勉強しました。

入会していたサークルの講師から「南部町でも紙芝居のサークルを立ち上げたら」と強く勧められて、体力面で不安を抱える私はだいぶ悩みましたが、方々に声をかけて、2016年7月に「紙芝居愛好会」を設立。少人数での「例会」がスタートしました。サークル運営は、まず経済的に逼迫し、“舞台”などの諸道具はメンバー個人の所有物を持ち寄り、支え合いました。

当時の様々な苦労を分かち合ったことが、現在の絆に結び付いていると思います。2018年に現在の「紙芝居クラブ」に改名。現在設立から6年目に入り、会員

は7名（内、男性1名 貴重な存在です）。諸事情で日常的に活動できるメンバーは5名ですが、気心の知れたメンバーの人柄の良さに助けられ、風通しのよいサークルになっていると思います。ただし、団体としてはまだまだ駆け出しです。紙芝居の上演に必須の『舞台』をはじめとした諸道具一式も、この1、2年で何とかそろえられたところです。相変わらず乏しい懐具合ですが、逆にそれが私たちのボランティアとしての矜持にも繋がっています。



最近は手づくり紙芝居も増えてきています

写真：「さるとかにのはなし」

作 しょうぶけ たねやす／絵 ふじた けんじ



質問

主な活動内容と活動の中で印象に残っていることなどを教えてください。

回答

現在は、月2回（第2・4水曜日）定例会を行っています。内1回は、講師を招いて指導を受け、自己研鑽を積んでいます。今年度は、一人一作品手づくり紙芝居の作成にも取り組んでいるところです。

実演活動は、「紙芝居劇場」が主です。各施設や地域の集まりに出向いて、紙芝居の舞台をその場につくり上演しています。これまで、町内の保育園や子ども会、公民館、神社、老人福祉施設、サロン、篠笛とのコラボレーションなど、様々な場所、場面で活動してきました。コロナ禍では実演がストップ。一刻も早くこの状況が終息して活動を再開したいと会員一同願っています。

活動の中でのやりがいは、紙芝居を披露した際、観客が集中に入り込んできた時、あるいは観客の楽しそうな笑い声を聞き、嬉しそうな拍手をいただいた時でしょうか。そういった場面では、こちらも達成感があります。

面白い活動もありました。田んぼのあぜ道で紙芝居を実演したことがあります。青森市の自然体験活動団体が大型バス2台に分乗して、友人の無農薬水田を来訪。そこで大勢の親子に田植え後の休憩時に文字通り田んぼの真ん中で紙芝居を披露しました。なかなかできない体験でしたのでとても印象に残っています。

質問

今後の活動や展望を教えてください。

回答

現状では拠点となる場所が確保できないため、出向いての実演がほとんどです。「文化施設を見れば、その街の文化レベルがわかる」とよく言われますが、要望も含め「図書室」ではなく、地域に多目的ゾーンを備えた「図書館」の設置が待たれるところです。

本の貸出しのみならず、多目的空間が存在することで様々なミニ形式の表現の場が広がることでしょう。

例えば、当サークルなら出張形式の「紙芝居劇場」だけでなく、定期的、安定的な活動（実演）の場の確保に繋がるとの期待大です。こういったことが、ひいては文化レベルの向上や底上げに寄与すると考えます。

現在の目標としては、人気の大人向け、高齢者向け現代紙芝居の認知度をアップさせること。そして、シニアの方、リタイアされた方、もちろん若い方ともスキマ時間を活かして一緒に活動できたらと思っています。

◎ 活動で上演する紙芝居 紹介 ◎



「モチモチの木」
原作／齋藤隆介
脚本・画／諸橋精光
鈴木出版



「かさじぞう」
脚本／松谷みよ子
画／まつやまふみお
童心社

【連絡先】

南部町社会福祉協議会
電話 0178-76-2662

善意の泉

社会福祉協議会にお寄せいただいた寄付をご紹介します。



物 品

- 山内ゆき彖 様 タオル150枚
- 匿名希望 様 紙パンツ 2袋
- 尿とりパッド 1袋
- 匿名希望 様 もちつき機 1台
- ジェットスチーマー 1台

プルタブ

- おしゃべりサロンしゃべる 様 0.65kg
- 匿名希望 様 4.07kg
- 匿名希望 様 1.22kg
- 南部町立名久井小学校 59.69kg
- 若本 光子 様 7.08kg
- 風間 正勝 様 7.00kg

名久井小学校からプルタブ寄付いただきました

南部町立名久井小学校では、校内にプルタブを集めるためのボックスを設置し、集まったプルタブを企画委員会の皆さんが整理、計量して社会福祉協議会へ寄付していただきました。寄付いただいた59.69kgを換金したお金で車いすを購入し、町内の方に貸出します。ご協力ありがとうございました。



皆様からのご寄付は、地域福祉事業のために大切に活用させていただきます。
(介護保険事業には充当しておりません。)

インフォ社協

information

無料法律相談のお知らせ

南部町民を対象とした弁護士による無料法律相談を下記のとおり開催します。土地、借金、財産相続等の法律問題を専門家に相談できるこの機会をぜひご活用ください。

日 時 12月21日 (火) 13時30分～

場 所 南部町総合保健福祉センター ゆとりあ

(南部町福田字館先25-1)

1人あたり30分程度の相談となります。
事前予約が必要となりますので、お気軽にご連絡ください。



【申込先】 社会福祉法人 南部町社会福祉協議会 電話 0178-76-2662

■発行と編集■ 〒039-0503 南部町大字平字広場28-1 南部町名川老人福祉センター内
社会福祉法人 南部町社会福祉協議会 TEL 0178-76-2662 FAX 0178-60-7060
ホームページアドレス <http://nanbusyakyo.jimdo.com>